

二〇二一年度 入学試験問題

国語

試験開始の合図があるまで、この問題冊子を開いてはいけません。
左記の受験上の注意事項をよく読んでください。

受験上の注意事項

- 一 問題用紙は12ページです。
- 二 試験時間は四十分です。
- 三 解答用紙に、氏名(フリガナ)・受験番号・中学校名・中学校コードを記入し、受験番号と中学校コードをマークしなさい。
- 四 マークシート記入上の注意

- ① マークの記入は、必ずHBの黒鉛筆で、所定のマーク解答欄の〇を正確にぬりつぶす。
 - ② 記述の記入は、所定の記述解答欄にていねいに行う。
 - ③ 訂正は、プラスチック製消しゴムできれいに消す。
 - ④ 解答用紙を、折り曲げたり、汚したりしない。
- *マークされていない場合または必要以上にマークがある場合は、0点です。

マークの仕方		良い例	悪い例
マークをする時	鉛筆で正確にぬりつぶす		
マークを消す時	消しゴムで完全に消す		

中京大学附属中京高等学校

〔一〕 次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

^a生物多様性なんてものが、なぜ重要か。環境へのカンシン^(ア)が薄い人に対しては、この説明がいちばんむずかしい。生物多様性の減少は、温室効果ガスと並ぶ地球規模の問題である。野生動物を保護しようというワシントン条約や、湿原を守ろうというラムサール条約が結ばれてきたのは、多様性保護の一環である。一九九三年には生物多様性条約が発効し、これまでに日本を含めて百八十ヶ国以上が締約国^(イ)となっている。マスコミに生物多様性という言葉が登場する機会も増えた。

I、条約を結んでまで守らなければならぬ生物多様性、「そりゃいったいなんだ」となると、おおかたの人は理解しないのではないだろうか。つまりは私の虫取りである。虫なんか捕まえて、なんになるのだ。

条約に基づき、環境省は生物多様性問題に取り組むための国家戦略をまとめている。それを見ると、生物多様性の現状として、

「開発や乱獲などにより多くの種が絶滅の危機にあること」「人間の生活スタイルが変化したことによる里山などの荒廃」

「移入種や化学物質による生態系への影響」

が挙げられ、生物多様性の保全と持続可能な利用の理念として、

「人間生存の基盤」「有用性の源泉」「豊かな文化の根源」

などが並び、目標として、

「種・生態系の保全」「絶滅の防止と回復」「持続可能な利用」

が掲げられている。

生物多様性という言葉自体がそうだが、全部が漢字である。右の国家戦略の要約もほとんど漢字ばかり。「生物多様性」という言葉に代わる「やまとことば」が現れるまで、この概念は定着しない。私はそんな疑いをもっている。環境省の内輪でも、絶滅は説明しやすいが、多様性はむずかしいといわれているらしい。

^bなぜ生物多様性を保護する必要があるのか。私の答えは単純である。「人殺しはいけない」というのと、その根本は同じことなのである。

なぜか。殺人というと、ほとんどの人が「人が人を殺す」と考える。しかし、もっと具体的に考えると、たとえば出刃包丁とか、ピストルの弾が人を殺す。問題はそこである。どういうことか。出刃包丁は、人に比べたら、むやみやたらに単純な道具である。ピストルの弾も同じ。きわめて単純な金属の塊^{かたまり}にすぎないのではないか。そんなものに、人を殺す権利はない。私はそう思う。

子どもが時計を分解する。分解するのは簡単だが、もう一度組み立てるといわれたら、まず不可能であろう。システムというのは、そうい

うものである。時計どころか、人体となれば、いったん壊したものをもとに戻すのは、当たり前だが、不可能である。私は解剖学の出身で、人体をもつばら「分解」していたから、それはよくわかっている。

それなら素手で殺したらどうか。まだマシである。相手もそれ相応に抵抗するに違いない。人を一人殺すのは、そういう状況では、容易ではないことがすぐにわかるであろう。だから昔は、喧嘩で刃物を持ち出したら「卑怯」だといわれたし、まして飛び道具はまさしく卑怯だったのである。

要するになにがいたいのか。システムは複雑なものだが、それを破壊するのはきわめて簡単なのである。他方、システムを作り上げるのは、現在までの人間の能力では、ほとんど不可能である。それがいいたい。だからこそ、安易に自然のシステムを破壊してはいけないのである。

とくに生物について、仏教はそれをきちんと教えてきた。私はそう思う。「生きとし生けるもの」a 寸の虫にも b 分の魂※いっさいのしじょう「一切衆生（あるいは山川草木）、悉有仏性」、こうした表現はそれをよく示している。

(中略)

生物多様性を維持するというのは、じつはその延長である。人間のつくり出した技術は強力だという。

II 人間自体を簡単に殺すという意味では、素手に比べて、ピストルは強力である。しかしピストルの単純さと、人間の複雑さを比較してみればいい。人間に比較したら、ピストルなんて、それこそバカみたいなものにはかすぎない。月までロケットが飛んだ。そんなことをいって、人間は威張(1)ってみるが、飛ぶだけならハエだってカだって飛ぶ。それならハエやカがつくれるか。そもそも人間はロケットの仲間か、ハエやカの仲間か。

現代社会は、ハエやカよりもロケットに価値を置く。

III

ロケットは人間が意識的に考えたもので、考えたとおりに月に行くから、意識は得意になるのである。それならハエがつくれるかというなら、とんでもない。むしろそれが不可能だとわかっているから、ロケットをつ

くろうとするのであろう。人間自体に価値を置く文化であるなら、ロケットよりも、人間の仲間であるハエやカのことを考えるはずである。生物というシステムについて、より真剣に考えるはずなのである。それがそうでないのは、意識中心の社会をつくり、意識的な存在のみを評価したからである。

生態系とは、ハエやカを含めた生物が、全体として作り上げているシステムである。その複雑さはとうていハエ(ウ)くしきれないほどのものがあり、だからこそ意識はそれを嫌うのであろう。自分には、わからないことがある。それを意識は嫌う。だからバカという言葉が嫌われる。しかしいかに嫌ったところで、意識にはハエくしきれないものがあるという事実は変わらない。

生物多様性とは、つまりは「生きとし生けるもの」全体を指している。それはただ生きていくというだけではない。その構成要素がたがいに循環する、巨大なシステムをなしている。それを「壊す」のは、人殺しと同じで、ある意味で「簡単」だが、「つくることができない」の

である。その意味で、現代人は時計を分解している子どもと同じである。なにをしているのか、一つ一つの過程は「理解している」つもりであろうが、全体としてなにをしようとしているのか、それがわかっていないに違いない。Ⅳ「生物多様性の維持」という妙な言葉になるしかないのである。

※ 一切衆生、悉有仏性：生きとし生けるものはすべて仏となる性質を内に持っているという説。

(養老孟司『一番大事なこと』より)

問一 二重傍線部(ア)～(ウ)について、漢字はその読み方をひらがなで答え、カタカナは漢字に直して答えよ。(記述解答欄)

(ア)は A、(イ)は B、(ウ)は C

問二

Ⅰ～Ⅳにあてはまる言葉はどれか。最も適当なものを、それぞれ次の①～⑤のうちから一つずつ選べ。ただし重複して選ばないこと。(マーク解答欄) Ⅰは 1、Ⅱは 2、Ⅲは 3、Ⅳは 4

① だから ② しかし ③ そもそも ④ なぜなら ⑤ たしかに

問三 傍線部 a「生物多様性」とあるが、言い換えている語句を本文中から十三文字(句読点・括弧を含む)で抜き出せ。(記述解答欄) D

問四 傍線部 b「なぜ生物多様性を保護する必要があるのか。私の答えは単純である。『人殺しはいけない』というのと、その根本は同じことなのである。」とあるが、「その根本」とはどのようなことか。最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。(マーク解答欄)

5

- ① 多くの環境問題と同じく、一人一人の人間の心の持ち方次第で解決できるということ。
- ② 自然のシステムは、壊すことは簡単だが再び作り上げることは現段階の技術では不可能ということ。
- ③ 「なぜ駄目なのか?」という事について多くの人は理解していないということ。
- ④ 仏教にはその教えが明確に書かれているように、地球規模で考えが浸透しているということ。
- ⑤ 「生物多様性の保護」と「人殺しはいけない」という両者とも理屈ではなく感覚で理解するということ。

問五

a と b に入る漢数字の組み合わせとして、最も適当なものを次の①～⑤のうちから一つ選べ。(マーク解答欄)

6

- | | | |
|---|-------|-------|
| ① | a ∴ 一 | b ∴ 五 |
| ② | a ∴ 五 | b ∴ 一 |
| ③ | a ∴ 一 | b ∴ 三 |
| ④ | a ∴ 三 | b ∴ 一 |
| ⑤ | a ∴ 一 | b ∴ 一 |

問六

傍線部c「意識中心の社会」と対応した意味をもつ語句を本文中から抜き出し、その初めの五文字を答えよ。(記述解答欄)

E

問七

本文の内容として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。(マーク解答欄)

7

- ① 生物多様性条約が発効し、社会一般に認識される事によって生物多様性への理解度が増していくことになった。
- ② 「生物多様性」に代わる「やまとことば」が現れるまで現代人によって環境破壊は進行し続けてしまう。
- ③ 人間の作り出した技術は強力であり、その技術力を有効活用すれば生態系の保全は簡単なことである。
- ④ 生物多様性は人間の意識では理解することができないものであり、それを維持することは不可能である。
- ⑤ 「生物多様性の維持」という言葉は、現代人が生態系に対し何をしているのか理解していないために生まれた言葉である。

〔二〕 次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

あらすじ 市町村合併のため、廃校が決まった美里中学に通う優太・モーター次郎。二人は同じ中学に通う姫（岡本暁人^{あきと}）の水泳部への復帰のために顧問であるウガジン（宇賀神先生）からトライアスロン大会への参加を条件として出される。三人とも参加には乗り気ではないが、ウガジンから特別ルールがあるという説明を受ける。

「簡単に言えば、この桜浜の大会だけの特別ルールだ。今大会にはそのローカル・ルールのひとつとしてリレー部門があるんだよ。スイム、バイク、ランにひとりずつ出て、リレーをするんだ。つまり、三人ひと組のチームとして参加できるんだよ」
「なるほど、それならばおれがスイム担当で出りゃいいってわけですね」
「姫がさっそく飛びついた。」

「さすが岡本。話のみ込みが早い」

ウガジンは拍手で姫を褒め称^{たた}える。姫はモーター次郎の肩をたたいた。

「おまえはいつも自転車で牛乳配達してるからバイク担当でいいよな」

「もちろん。自転車なら自信があるよ。毎朝三時間は自転車に乗ってるからね」

「三時間か。すげえな。オーケー。それじゃ、ラン担当は優太ということだ」

「ちょっと待てよ」

話がどこまでも勝手に転がっていきそうなので、ストップをかけた。

「なんだよ優太」

「勝手に決めるなよ。トライアスロンに出場するなんて、ひと言も言っていないだろ」

「^aそもそもぼくはひとり三競技だろうが、一競技だろうが、最初から出るつもりはなかった。」

「いいじゃんか。おれを助けると思って出てくれよ」

馴れ馴れしい口調で語りかけてくる姫を無視して、ウガジンに詰め寄った。

「先生はぼくの膝が悪いことを忘れたんですか。ちょっと走るくらいならいいですけど、優勝なんて絶対無理ですよ。もし優勝したいんだっ

たら、ぼくをメンバーからはずしてください」

「おい、優太」

いきなり姫に腕をつかまれて、職員室の外まで連れていかれた。

「痛いな。なんだよ」

姫の手を振りほどく。

「落ち着けよ。冷静になれって。いいか？おれの水泳部復帰のために優太を巻き込んだのは悪いと思ってるよ。でもな、ウガジンはおれの復帰の条件として、トライアスロン大会への参加を言ってきただけなんだよ」

「うん？」

「つまりな、優勝しなきゃ駄目とは言っていないだろ」

そう言われればそうだ。

「おれたちはトライアスロン大会に参加すればそれでいいんだよ。優太はただら走ってくれるだけでいいのさ。そもそもさ、トライアスロン大会は全中[※]のあとなんだぜ。全中に出られさえすれば、そのあとのトライアスロン大会でピリを取ろうが、途中で棄権^(テ)しようが、関係ないってことだよ。学校がなくなるんだかなんだか知らないけど、卒業しちまうおれたちには関係ないよ。おれたちはただ出ればいい。わかったか」

姫の言っていることはわかった。でも、迷った。

たとえランパートだけにしても、膝の悪いぼくがトライアスロン大会に出るわけにはいかない。クラスのやつや、サッカー部のやつらに、出場することを知られたら都合が悪い。なんだよ走れるじゃないか、なんて後ろ指差されることになる。ぼくの膝は壊れたことになっているのだ。

「やつぱり無理だよ。膝が悪いから」

苦笑いで断った。すると、姫の顔から表情がさっと消えた。視線はぼくの目に固定されたまま一ミリも動かない。そして、その瞳がぞくつとするほど冷たいのだ。一瞬にして鳥肌^bが立った。姫が怖い。

たしかモー次郎が言っていた。姫は真つ黒い心を持っていて、キレたらとんでもないことをするにちがいないと。悪魔みたくに見えたとも言っていた。

いま、この瞬間、モー次郎の言葉がとてつもなく真実味を帯びて感じられた。

「おまえさ、もう I 芝居はやめろよ」

冷たくて乾いた声だった。

「なにが芝居なんだよ」

A

一瞬、息が止まった。

「嘘じゃないよ」

「本当は痛くなんかないんだろ」

「痛いけどガマンして^(イ)るんだよ。痛くないふりをしようって努力してるんだ」

ほくは左膝をさすった。

「ちがうだろ。 B

「そんなことはないよ」

「言い訳はしなくていいぜ。前から思ってたんだけどさ、嘘ついてるのミエミエだぜ」

「いいかげんなこと言うな」

「いいかげんなのは優太だろ。膝が痛い、痛いって言うわりにはよ、帰りのホームルームが終わった瞬間にダッシュで帰ってるじゃん。おかしいだろ。というかさ、きつとクラスのやつらもおかしいって気づいてるぜ。気づいてないのは優太自身だけじゃないのか」

血の気がさつと引くのが自分でもわかった。

「なあ、優太。おまえ、 C。そのために膝が痛いって言い訳を用意してあるんだろ、ちがうか」

「そんなんじゃないよ。本当に痛いんだ」

「去年からおまえには水泳部に来てもらってるわけだけだよ、おまえのタイムどんどんよくなってたぞ。どっか^(ウ)コシヨウしてるとは思えないくらいだよ」

「適当に話を作るなよ」

「おれタイム計ってたもん。それに、おれくらい水泳を長くやってれば、泳ぎ方を見ただけでもコシヨウを抱えているかどうかくらいわかるもんさ」

思わずあとずさりした。姫はいままでほくの膝の嘘を見抜いておきながら、ずっと黙っていたというのか。

「ぼくは本当に膝が痛いんだ。マジで走るのは無理なんだ」

「なんでもかんでもすぐに無理だ、無理だって言いやがって」

「姫がにじり寄ってくる。浮かべている笑みが、ますます悪魔っぽくなっていく。くそ。マジでこわい。どうしたおまえら。いつまでも廊下で」

「がらりと職員室のドアが開いて、ウガジンが出てきた。助かった。ウガジンに泣きつく。」

「先生。やっぱりランパートは無理です。トライアスロンには出られません」

「でもなあ……」

「なんなら、ぼくが必ずかわりのランパートを探します。それじゃ駄目ですか」

「姫の視線を頬に感じつつ懇願した。ウガジンが渋々答える。」

「優太がちゃんと責任持って探すというんだな」

「はい」

「それならいい」

「ありがとうございます」

深く頭を下げてから顔を上げると、ウガジンの後ろに星村先生の姿が見えた。どうやら、こちらのやり取りが気になって様子を見に来たらしかった。いまこの状況で星村先生は天使に見える。天使に頼み込む。

「星村先生。明日の帰りのホームルームで、トライアスロンのランパートに出てくれる人を探したいんです。いいですか」

「お願いします、と深々と頭を下げる。」

「いいわよ」

星村先生はやさしく答えてくれた。やっと安堵の息をつく。横を見ると、姫が冷ややかな目でぼくを見ていた。「嘘つき」とその目は語っていた。

※ 全中……全国中学校水泳競技大会

(関口 尚『空をつかむまぼ』より)

問一 二重傍線部(ア) (ウ) について、漢字はその読み方をひらがなで答え、カタカナは漢字に直して答えよ。(記述解答欄)
(ア) は **F**、(イ) は **G**、(ウ) は **H**

問二 傍線部 a 「そもそもほくはひとり三競技だろうが、一競技だろうが、最初から出るつもりはなかった。」とあるが、その理由を最も端的に表している部分を本文中から十六文字で抜き出し、その初めの五文字を答えよ。(記述解答欄) **I**

問三 傍線部 b 「鳥肌が立った。」のは「ほく」のどのような心理からか。最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

(マーク解答欄) **8**

- ① 懐疑心 ② 恐怖心 ③ 罪悪感 ④ 不安感 ⑤ 脅迫感

問四 空欄 I に、「すぐ見すかされる浅はかなたくらみ」という意味の熟語になるように動物名を漢字一字で答えよ。(記述解答欄) **J**

問五 空欄 A～C に入る会話文の組み合わせとして最も適当なものを、次の①～⑥のうちから一つ選べ。(マーク解答欄) **9**

- ① A: 痛いふりをする努力をしてるんだろ B: 膝が悪いなんて嘘つくのはやめろ C: なんか逃げたいことがあるんだろ
② A: 痛いふりをする努力をしてるんだろ B: なんか逃げたいことがあるんだろ C: 膝が悪いなんて嘘つくのはやめろ
③ A: 膝が悪いなんて嘘つくのはやめろ B: なんか逃げたいことがあるんだろ C: 痛いふりをする努力をしてるんだろ
④ A: 膝が悪いなんて嘘つくのはやめろ B: 痛いふりをする努力をしてるんだろ C: なんか逃げたいことがあるんだろ
⑤ A: なんか逃げたいことがあるんだろ B: 膝が悪いなんて嘘つくのはやめろ C: 痛いふりをする努力をしてるんだろ
⑥ A: なんか逃げたいことがあるんだろ B: 痛いふりをする努力をしてるんだろ C: 膝が悪いなんて嘘つくのはやめろ

問六 傍線部 c 「天使に頼み込む。」に使われている修辞法として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

(マーク解答欄) **10**

- ① 直喩法 ② 擬人法 ③ 擬態法 ④ 隠喩法 ⑤ 換喩法

問七 傍線部d「やっと安堵の息をつく。」とあるが、このときの「ほく」の心情として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

(マーク解答欄)

11

- ① トライアスロンに出場するほどの体力は自分でも無いと分かっていたため、出場しなくて済みほっとしている。
- ② 勝利に対して食欲どんなウガジンや姫に対して気持ちが冷めてしまい、出場しなくてよさそうになり安心している。
- ③ トライアスロンに出場することで嘘うそがばれてしまうことを怖れていたが、出場しなくてよさそうになり安心している。
- ④ 自分の代わりにトライアスロンに出場してくれる友人を確保することができ、嬉しさで興奮している。
- ⑤ 初めてのトライアスロンに出場してもプライドに傷が付くだけなので、出場しなくてよさそうになり安心している。

〔三〕 次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

〔原文〕

また、治承水無月のころ、にはかに都遷りはべりき。いと、思ひの外なりしことなり。おほかた、この京の初めを聞けることは、嵯峨の天皇の御時、都と定まりにけるより後、すでに四百余歳を経たり。ことなるゆゑなくて、たやすく改まるべくもあらねば、これを世の人安からず憂へ合へる、げにことわりにも過ぎたり。

されど、とかくいふかひなくて、帝より初め奉りて、大臣・公卿皆ことごとく移ろひたまひぬ。世に仕ふるほどの人、たれか一人ふるさとに残りをらむ。官・位に思ひをかけ、主君の陰を頼むほどの人は、一日なりともとく移ろはむと励み、時を失ひ世に余されて期する所なきものは、愁へながら止まりをり。軒を争ひし人の住まひ、日を経つつ荒れゆく。家はこぼたれて淀河に浮かび、地は目の前に畠となる。人の心皆改まりて、ただ馬・鞍をのみ重くす。牛・車を用する人なし。西南海の領所を願ひて、東北の庄園を好まず。

〔「方丈記」より〕

〔口語訳〕

また、治承四年六月のころ、突然遷都がありました。本当に思いがけないことであつた。そもそも、この平安京の起源について聞いたことは、嵯峨天皇の時代に、都と定まつたとき以来、四百余年もたつてゐる。特別の理由がなくては、簡単に改まるはずもないので、これを世の人々が不安に思い互いに心配し合つていたことは、いかにも **b** ことである。

しかし、あれこれといつても仕方がなくて、天皇を初めとし申し上げて、大臣・公卿も皆すべてお移りになつてしまわれた。朝廷に仕えて官職についている身分の人は、誰がただ一人でこの **c** に残つてゐるだろうか。官職や位階に望みをかけ、主君の恩恵を期待する身分の人は、一日でも早く移ろうと努力し、時勢に会わず世の中に取り残されて期待するところのないものは、悲しみや不満を訴えながら都にとどまつた。軒を争つてゐた人々の住まいは、日がたつにつれて荒れていく。家はうち壊されて淀河に浮かんで、土地は目の前で畑となる。人々の気持ちは皆変わつて、ただ馬や鞍ばかりを重んじる。牛や車を用いる人はいない。九州や四国の領地を希望して、東国や北国の庄園を好まない。

問一 傍線部 a 「これ」は何を指しているか、【原文】のうちから該当する語句を三文字で抜き出せ。(記述解答欄) K

問二 傍線部 b 「ことわり」の本文中での意味として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。(マーク解答欄) 12

- ① 当然の
- ② 不思議な
- ③ 普通の
- ④ 理解しがたい
- ⑤ 意外な

問三 傍線部 c 「ふるさと」の本文中での意味として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。(マーク解答欄) 13

- ① 栄えている土地
- ② 生まれた土地
- ③ 以前行ったことのある土地
- ④ 新しい都
- ⑤ 古い都

問四 傍線部 d 「官・位に思ひをかけ、主君の陰を頼むほどの人」と正反対のことを書いている部分を【原文】のうちから抜き出し、初めと終わりの三文字を答えよ。(記述解答欄) L

問五 本文の出典『方丈記』の成立時代はいつか。最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。(マーク解答欄) 14

- ① 奈良時代
- ② 平安時代
- ③ 鎌倉時代
- ④ 室町時代
- ⑤ 江戸時代

中京大学附属中京高等学校 国語解答用紙

フリガナ	
氏名	

注意事項 ※には、何も記入しないでください。

受験番号			
1	0	0	0
2	0	0	0
3	0	0	0
4	0	0	0
5	0	0	0
6	0	0	0
7	0	0	0
8	0	0	0
9	0	0	0
0	0	0	0

中学校名			
中学校			
中学校コード			
1	0	0	0
2	0	0	0
3	0	0	0
4	0	0	0
5	0	0	0
6	0	0	0
7	0	0	0
8	0	0	0
9	0	0	0
0	0	0	0

解答 番号	マーク解答欄									
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	0
1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
11	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
13	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
14	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

記述解答欄						
E	D			C	B	A
				ウ	イ	ア
	X					
00	00			00	00	00
						※
L	K	J	I	H	G	F
				ウ	イ	ア
00	00	00	00		00	00
						※